２０１９年９月２８日　日韓親善会議　仙台にて開催

田中作次

今回は久しぶりに開催される日韓親善会議に参加する機会を得て大変光栄に存じます。韓国と日本の文化にある、社会に役立つために仕事をするという考え方は、ロータリーの考え方に通じるものがあります。ロータリーでは職業を通じて、そしてクラブを通じて、社会に役立とうとしています。その念じ方は、私たちを平和へ順調に進め、調和に満ちた生活へと導きます。暗闇の全盛期から韓国と日本が発展し、友好を築いてきたことは、世界の希望の象徴だったと思います。私たちは、貧困と繁栄、そして戦争と平和を体験して参りました。私たちの歴史は、常に希望と可能性があることを物語っています。

どのような争いにも、常に平和への道があるはずです。何が起こるかは誰も想像できませんが、奉仕を通じて平和を信じ、ベストを尽くせば少しずつ平和を築いていけると信じています。　私たちの多くは、自分が死んだ後に何が残るかを知ることはないでしょう。しかし、人生の一日、一日、自分のベスト尽くし、世界をこれまでよりも良い場所にするチャンスがあります。私たちは、毎日さまざまな勉強をします。今日は、どんなふうに過ごそうか。何を優先にしようか。

自分のために、また、ほかの人のために生きるか。自分が楽しいと思うことにエネルギーを注ぐか。みんなにとって最善のことをすべきか。　私は、ほかの人の役に立つことが、人生でいちばん大切なことだと考えます。これは、ロータリーを通じて学んだことです。人生ではいろいろな方法で喜びが得られます。しかし、ほかの人々を助けることで得られる喜びがいちばんです。人を助けることで、自分も幸せになります。誰かと人生を分かち合いたいと思うのは、自然で、人間的なことです。幸せな時も悲しい時も、成功した時も困難な時も、それを一緒に分かち合う人が、側にいてほしいと思うのです。

それと同時に、自分もほかの人のために、そこに入れてあげることが大切です。超我の奉仕は、単なる言葉ではなく、生き方を表しています。私たちがいかに生きるかを教えるものです。私たちは、家族と暮らし、地域社会の中で生活しながら、自分だけでなく、誰かのために何かすることがあるはずです。人生の深みというものは自分以外のためにすることから生まれると、私は思います。奉仕を通じてより良い世界をつくる一端を担うことができるでしょう。　他者のために生きようとうれば、視点や考え方が変わり、優先順位も変わってきます。みんなにとっていちばん良いことは何かを考えるようになり、自分のことは二の次となります。自分のことをいちばんに考えるという人もいます。私はこの考え方に賛成できません。もちろん、自分自身のことをしっかりやらなければならないのは、当然です。自分のことだけでなく、お互いのことを考える必要があります。お互いのことを考えてこそ、皆がより幸せになり、もっと平和な世界がつくられるようになると思います。奉仕するということは、他社や社会のためにお役に立つことで、平和に貢献するということです。ロータリーでは、平和についてよく耳にしますが、平和が何を意味するかについて、あまり考えることはないように思います。平和は、私たちにとって何を意味するでしょうか。平和は単なる言葉ではありません。

平和は理念です。私たちが奉仕を通じて実現する私たちの生き方そのものだと思います。　地域社会に奉仕するだけではなく、誰かにスキルを教えたり、家のペンキ塗りを手伝ってあげたりする時、自分と地域社会との深いかかわりを実感し、ほかの人々のことを考えるようになります。そして、自分自身も成長します。平和が私たちにとって何を意味するかを考えていただきたいと思います。平和は私たちが達成できる現実的な目標です。より幸せで平和な世界を築くという目標を目指していかなければなりません。　次は、私のロータリアンになってからの感想です。

私は、ロータリアンになってから、人生のこと、自分のことなど、多くのことを学びました。その中で、いちばん身にしみていることは、物事はいつも予想通りにはいかないということです。新潟で育った少年時代から、本当に多くのことが変わりました。当時は誰しもが貧しい時代でしたから、みんな一生懸命に働き、いつの日かいい暮らしができる、そう望んでいました。とは言っても、人生が変わると思うような理由が、特にあったわけではありませんでした。親も、祖母も、祖父母も、そのまた祖父母たちも、そのような素朴な人たちでした。

地図を見ながら遠くに行くことも考えたものですが、知り合いの中に海外に行った人などいませんでした。自分が海外に行くなど、考えてもいませんでした。　60年以上前の韓国と日本の人々が、いつの日かこのような親善会議が開かれることになると言っても、誰も信じなかったでしょう。とてもそんなことが可能と思えないほど、両国の間の壁は高く、歴史の傷跡は深いものでした。しかし、今日私たちはここにいます。この会場にこうして集まって会うことが出来ます。

今それぞれには多くの問題もありますが、自分たちが考えている以上に、私たちは、今、世界を変える力があります。今まで、韓国と日本は友好国であって、価値観や経済関係にあっても非常に近い関係を保ってまいりましたので今後とも何卒よろしくお願いいたします。